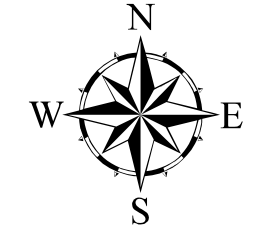


下津付近 津波防災情報図(進入図)

計算条件：最高水面
 隆起量：平均 -25cm(-28cm ~ -22cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:25,000

座標系：メルカトル法
 測地系：世界測地系(WGS84)

凡例

— 水位上昇(+10cm)となる等時線[分]

○ 経時変化図出力点

最大水位上昇

500~最大500cm

450~500cm

400~450cm

350~400cm

300~350cm

250~300cm

200~250cm

150~200cm

100~150cm

進入時最大流 [knot]

6 knot

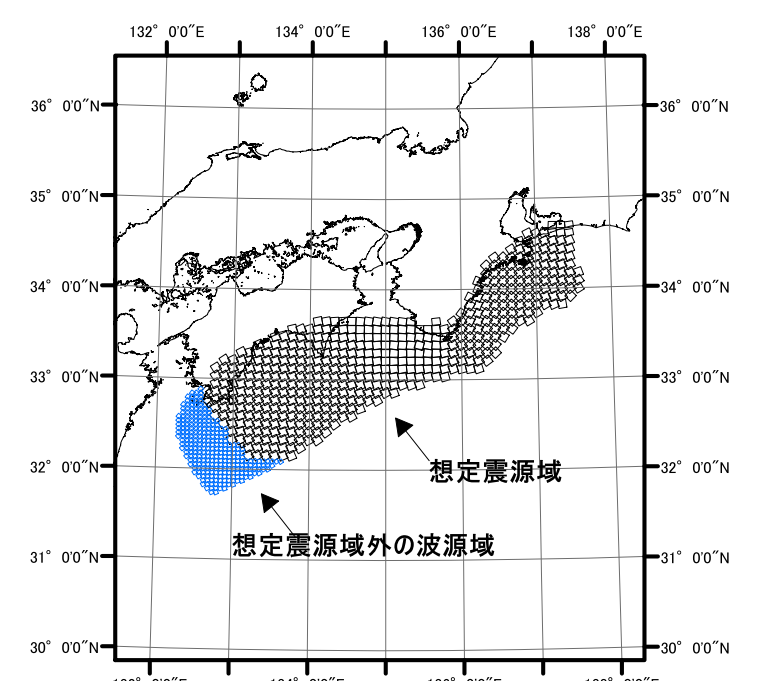
4 knot

2 knot

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

・津波の到達時間は、水位が10cm変動した時点を算出している。

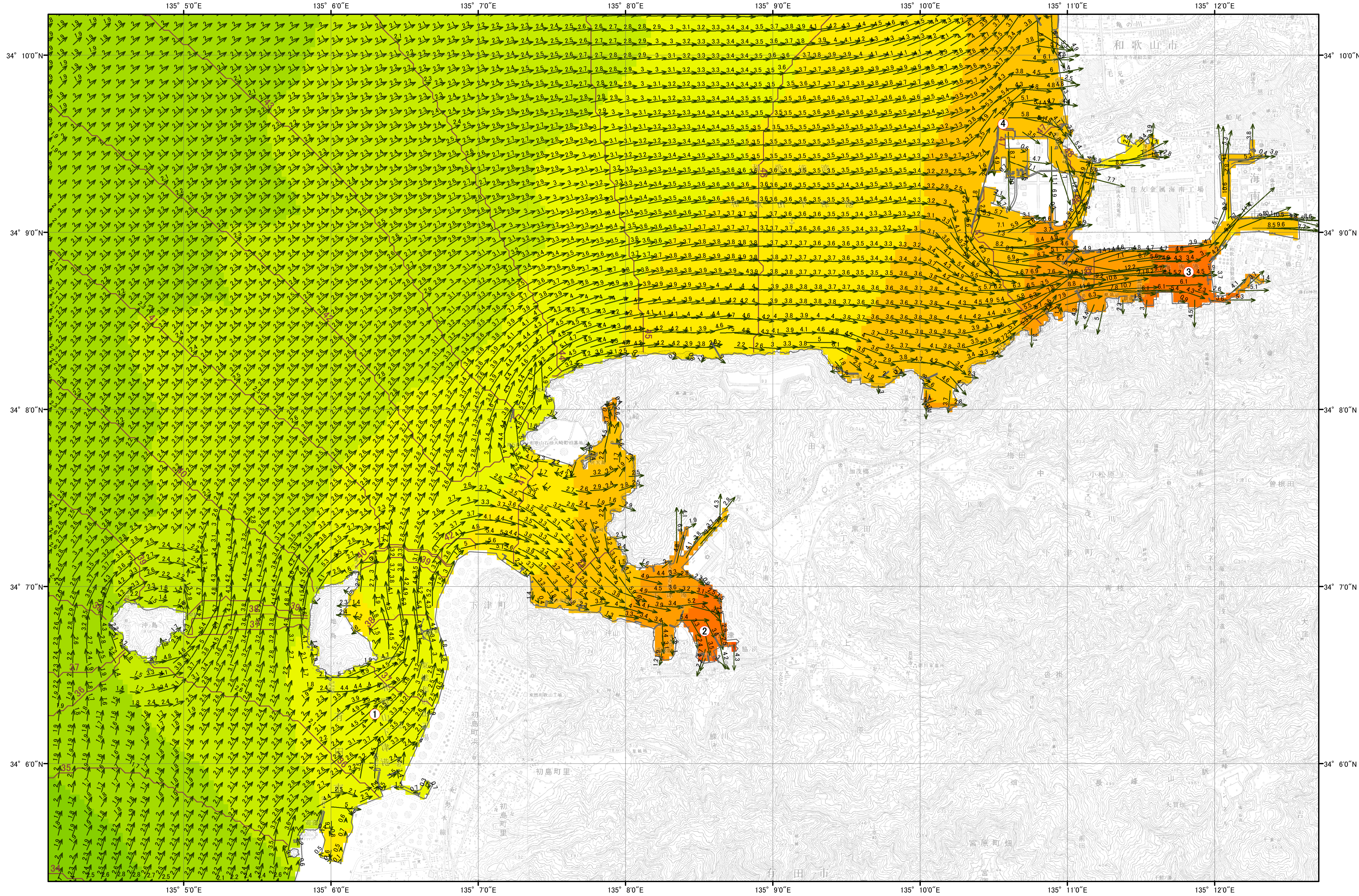
想定震源域と波源域の位置



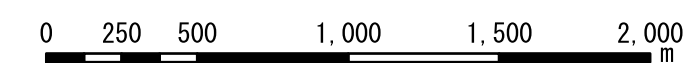
マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N·m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁
 作成年月：平成16年 3月(初版)



・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
 (承認番号 平15総使、第673号)
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものである。
 (承認番号 平15総使、第672号)



経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。

